

# 平成 30 年度 糸魚川市駅北復興まちづくり計画評価委員会（議事録）

日 時	平成 31 年 3 月 22 日(金)13 時 15 分～14 時 55 分	場所	糸魚川市役所 203、204 会議室
件 名	<p>○議事</p> <p>(1) 平成 30 年度 復興まちづくり計画の内部評価について</p> <p>① 内部評価結果（全体概要）・・・資料 1、参考資料 1</p> <p>② 内部評価概要（重点プロジェクト）・・・資料 2、参考資料 1</p> <p>(ア) 大火に負けない消防力の強化</p> <p>(イ) 大火を防ぐまちづくり</p> <p>(ウ) 糸魚川らしいまちなみ再生</p> <p>(エ) にぎわいのあるまちづくり</p> <p>(オ) 暮らしを支えるまちづくり</p> <p>(カ) 大火の記憶を次世代につなぐ</p> <p>③ 被災者・関係者アンケート結果・・・資料 3</p> <p>(2) 復興まちづくり計画変更案について・・・資料 4</p> <p>(3) その他</p>		
出席者	出席委員：中出文平委員長、関澤愛副委員長、江口知章委員、岡崎篤行委員		
事務局	見辺産業部長、山本市民部長、渡辺総務課長、斉藤復興推進課長、五十嵐建設課長、丸山消防長、横澤健康増進課長、渡辺企画定住課長、大嶋商工観光課長、竹田消防防災課長、太田復興管理監、赤池復興技術監、山口ガス水道局次長 ほか 9 名		
傍聴者	1 人（報道関係 5 社）		

## 会 議 要 旨

1 開会	<p>司会：事務局長</p> <p>糸魚川市産業部復興推進課 斉藤課長</p>
2 市長挨拶	<p>・平成 30 年度糸魚川市復興まちづくり計画評価委員会の開催にあたり、一言あいさつ申し上げます。</p> <p>本日は、委員の皆さまにおかれましては、年度末の大変お忙しいなか、ご参集賜り誠にありがとうございます。また、日頃より糸魚川市駅北大火からの復興まちづくりに関し、専門的な見地からご指導とご助言を賜っておりますことに、改めてお礼申し上げます。</p> <p>さて、被災地では、住宅や店舗の再建工事も概ね完了に近づき、4 月には待望しておりました駅北復興住宅への入居も始まります。大火から 2 年余りが経過するなかで、被災者の「生活の復興」については、一定の目途が立ったものと感じております。今後は、地域コミュニティの維持や活性化、市街地としての魅力あるまちづくりといった被災地における「社会の復興」に局面が映ってまいります。</p> <p>こうしたことから、引き続き、復興まちづくり計画の着実な進捗に努めるとともに、定期的な評価と検証を行うなかで、見出された課題に対する改善を継続してまいりたいと考えておりますので、委員の皆様のご格別のお力添えを賜りますことをお願い申し上げます、あいさつとさせていただきます。</p> <p>(市長退席)</p>

<p>3 議事 (1)-① 中出委員長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・議事①「内部評価結果（全体概要）」について、事務局説明願います。</li> </ul> <p>（事務局説明）</p>
<p>中出委員長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今ほどの説明に対し委員の皆さまからご意見、ご質問等ありましたら承りたいと存じますがいかがでしょうか。</li> <li>（委員からの発言なし）</li> <li>特にないようでございますので、議事の方を進めさせていただきます。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・議事②「内部評価結果（重点プロジェクト）」に入ります。こちらの議事については、プロジェクトごとに説明をいただき、委員の皆さまからご意見を承ります。まず、1番目の「大火に負けない消防力の強化」について事務局から説明願います。</li> </ul> <p>（事務局説明）</p>
<p>関澤委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・設備等の設置に関しては、防火水槽をはじめとして、ほぼ予定通りに進んでいるものと評価します。また、特に40ミリホースによる初期消火体制の強化などは、復興地域だけでなく糸魚川市にいくつかある木造密集市街地も含めた視野で進めており、そういったことも含めて防災への取組が進んでいると評価できると思います。</li> <li>・融雪揚水の活用は無電柱化工事等との工期調整ということで、遅れることについて理由がはっきりしており問題はないのですが、富山県の方との協定に少し時間がかかっていることについて、詳しく説明をお願いします。</li> </ul>
<p>事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大火の時は、隣接する新川消防本部（朝日町・入善町・黒部市）と協定を結んでいたのですが、その先の東部消防本部との応援協定がなかなか進んでいないという状況です。新潟県と富山県でも話し合いの場を持っていますし、国の方でもあり方検討会のなかで「応援」というキーワードを出されているので国の方でも検討していくという話をいただいているので、そのなかで進めていきたいと考えています。</li> </ul>
<p>関澤委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・もう一つ、消防団との連携、指揮命令系統の効率化についても、もう少し具体的にどのような改善が図られているのか説明いただけますか。</li> </ul>
<p>事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・消防団の指揮命令系統については、大火当日なかなか機能しなかったという状況があり、現在3方面隊が合同で指揮本部訓練を毎年2回重ねており、今後も継続していきたいものです。</li> </ul>
<p>関澤委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市の消防本部との連携はいかがですか。</li> </ul>
<p>事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・合同訓練には、消防本部の指揮隊も入って、消防署と消防団が連携できるように進めています。</li> </ul>
<p>中出委員長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ほかに意見がないようでしたら、2番目の「大火を防ぐまちづくり」について事務局から説明をお願いします。</li> </ul> <p>（事務局説明）</p>

関澤委員	・防災広場8か所について、火除け地のような形としていくと言う話でしたが、にぎわい創出広場での防災の位置付けについては今、どのような計画状況ですか。
事務局	・防災広場8か所は、基本的にはコンクリート舗装に植樹がされているという内容で間もなく完成いたします。火除け地という話がありましたが、防災上の効果だけで無機質な空間にならないよう安らぎとか賑わいづくりに生かしていきたいものです。にぎわい創出広場の方は、にぎわい創出の場所ということで全天候型の上屋付きの広場として、大火の記憶を伝承することもこの広場で担っていきたいと考えているところです。
関澤委員	・にぎわい創出広場は、200トンの防火水槽があり、あまり重たいものは建たないと思いますが、防災空間としてはどのような考え方なのですか。
事務局	・いずれの広場もそうですが、にぎわい創出広場は建屋もあり、雨露もしのげることから一時避難地として、市の防災計画にも位置付けたいと考えています。 ・補足ですが、にぎわい創出広場は1300㎡ほどの敷地になります。その中に建築面積360㎡ほどの鉄骨造の建物を建てる予定にしています。建物は準耐火建築物で、建物上も延焼遮断の効果のある空間にしていきたいと考えています。
関澤委員	・一時避難場所ということで、まずはそこに避難して地域の人が災害の情報を得られるというのであれば、そういうことを明示した方がよいと思います。
中出委員長	・火災が起きたときに一時避難するというのではないんですね。
関澤委員	・今回の大火でもそうですが、火災のときはエリアの外に逃げればよいという考え方です。
中出委員長	・そうだと思います。事務局が言われた一時避難ということが火災のためなのか、それ以外の災害のためなのか、どういうイメージですか。火災のための一時避難ということではないということですが。
事務局	・今回の大火のように火災の場合は、火の外のエリアに避難するということになりますので、地震とかいった災害のときの一時避難場所ということになります。
中出委員長	・地震のとき、この場所は津波は大丈夫なのですか。津波に関しては最初の30分が勝負なので、危険があるようなら一時避難場所にしない方がよいということになります。
事務局	・消防本部の方と相談し、どういった災害のときにどこに一時避難してもらえばいいのか明確にしていきたいと思います。 ・補足させていただきます。県の津波浸水想定では、駅前通りの一部に水が入ってくる想定になっていますが、にぎわい創出広場に関しては、県の想定した津波では避難場所になりうる形となっています。
中出委員長	・一時避難所と明示するのであれば、災害の種類によって避難場所が変わるのは当たり前なので、大雨の時はここ、地震のときはここ、火災のときはここというようにわかるようにしておかないと市民をミスリードすることになりかねないので、よ

	<p>く考えてください。</p>
中出委員長	<p>・私の方から1点、6mの道路の拡幅がほぼ終わっているとのことですが、美装化との関連で道路ネットワークとして歩行者が中心の道なのか、車が入り込む道なのか。6mだと車が入り込む道ということになるので、少し落ち着いてきた段階で、車の動線と歩行者の動線をどう管理していくかというのを考えていってほしいと思います。主な車の動線は、国道8号や駅前通り、本町通りになると思いますが、本町通りより細いところは、美装化や無電柱化する路線も考慮しながら動線が錯綜しないように、復旧復興が終わった次の段階の課題と捉え考えていってください。</p>
中出委員長	<p>・それでは、3番目の「糸魚川らしいまちなみ再生」について事務局から説明をお願いします。</p> <p>(事務局説明)</p>
岡崎委員	<p>・難しい状況の中では、十分に取組まれていると思います。今後の課題としては、雁木にしても道路の美装化にしてもシンボリックにするために、その時は立派にしようという雰囲気になりがちですが、長期的なことを考えるとメンテナンスのこともあり、あまりハイスペックなものにしすぎると後々大変になるので、コストの面もふまえながら、あまりやりすぎないというのが景観的にも良い場合があります。</p> <p>・あと、計画に明記するようなレベルの話ではありませんが、夜間の照明（ライトアップ）の話があります。シンボリックになるにぎわい創出広場や向かいの酒蔵もあるので、夜間景観的には大事なところになるので、設計レベルではそういったことも考えていってほしいと思います。</p> <p>・もうひとつ、駐車場問題というのが糸魚川に限らずどこにもあります。佐渡でも駐車場のあり方を地元の方と膝を突き合わせてやっていますが、今後、全体の景観を良くしていくという面では考えていってほしいと思います。</p>
中出委員長	<p>・雁木と母屋がくっついてたのが、母屋が下がって駐車場がもろに見えるようになったときに駐車場をどういうふうに変えていくかという所は、岡崎先生から知恵を借りながら引き続き取り組んでいってください。</p>
事務局	<p>・雁木を頑張りすぎないというのは指導いただいているところで、市がこれから作るモデル的な雁木について、にぎわい創出広場のところは少し頑張りようと思いますが、ほかのところは鉄骨などで費用的にも取り組みやすいようなものを住民の方に見える形にしていきたいと思います。</p> <p>・照明に関しては、広場など公共の施設や美装化する路線で考えているところです。地区から管理していただいていた防犯灯について、美装化するところについては、LEDではなく、柔らかい感じのするナトリウム色の灯具にしていくよう検討しています。</p>
中出委員長	<p>・無電柱化するところの街灯はどうするのですか。</p>
事務局	<p>・本町通りの雁木の部分は、これまで蛍光灯が天井についていて、それなりの明るさがあったのですが、雁木が以前のように建ち並べば、軒裏に統一的にやろうかと</p>

<p>中出委員長</p>	<p>いう話にもなるのですが、まだ再建をどうしようかという方もいらっしゃいますので、連続的にやろうとすれば足元から照らしたりというようなことを商店街の方と話し合っているのですが、具体的なものはまだ固まっていない状況です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・防災広場やにぎわい創出広場の隅には灯りをつくっておかないと夜暗い通りというのは防犯上問題となります。観光者向けにライトアップということもあるわけですが、日常生活者の安全ということで、出来上がりつつあるなかでもやれることですので、よろしくお願いします。</li> </ul>
<p>中出委員長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それでは、4番目の「にぎわいのあるまちづくり」について事務局から説明をお願いします。</li> </ul> <p>(事務局説明)</p>
<p>江口委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・何点かお話をさせていただきます。1点目は、対話の継続という事です。にぎわいのあるまちづくりプロジェクトはほかのプロジェクトに比べて若干の遅れが見られる部分も出てきていますが、にぎわいについては行政だけでなく地元住民や民間事業者、さらに言えばこれから創業しようという見込者を含めて連携していく必要があります。特に、にぎわい拠点施設については、復興まちづくり市民会議でも色々な意見があり、擦り合わせをしていく必要がありますので、現状では、多少は遅れが出ることもあっても、地元の方々や民間事業との対話を重視していく必要があると思います。現在も対話を広げていくために、市民会議やリノベーションスクール、ビジネスコンテストなど色々なものに取り組んでいるわけですが、将来的にいつかの時点で成果評価し、取捨選択あるいは、民間でできるものは民間にお願いすることも必要になります。現状では、対話重視の所を丁寧にやっていた方がよいと思います。</li> <li>・2点目は、にぎわいを生み出すために、どうしても新しい施設や新しい店舗を創出して新しい人に来てもらおうという所に主眼が置かれがちです。そういうことも大事なことですが、今すでに糸魚川市に訪れている方の回遊性を高める取組が少し不足しているのではという気がしています。具体的には、新幹線駅に旅行者が来ていて、待ち時間の間、手持無沙汰で滞留しているという話があり、30分あれば駅北を楽しめるスポットがありますというようなブラックボードを一つ置くだけでも違うということがあります。新幹線の駅、市内の観光施設、温泉旅館、飲食店や酒蔵への行きやすさ、循環させていくような取組も視野に入れないと、新しい人が来た場合に同じような問題が起きてしまいます。</li> <li>・もう1点は、リピーター対策です。にぎわいを生み出すために新しい施設、新しい店舗というのも大切ですが、どうしてもモノあるいはスペックに関心が向いてしまいます。例えば、年賀状を一杯もらう人はどういう人かという、一杯出す人ということになります。つまり、にぎわいをつくり出そうとしている人からの情報発信力が大事です。ほかの自治体でも広域からお客さんと呼んでいるところは、リピーター向けのダイレクトメールやSNSで積極的に情報発信されています。今後整備していく施設や新しい店舗があれば何とかできるのではないかと思いますがいちがいでありますが、一度お出でいただいた方にどうしたら二度三度来ていただけるかという、集客のシナリオや情報発信方法もあわせて考えていくことが大切です。</li> </ul>

中出委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今ほどお話のあった、回遊性を高めるとかリピーター対策というのは、市だけで出来るものではなく、市と民間、商工会議所を含めて連携して進めていただくことだと思いますのでよろしくお願いします。</li> <li>・新幹線や在来線の乗り換えやダイヤの間隔、例えば2時間おきなら2時間で回れるコースを駅北だけでなく駅南も含めて考えていただければと思います。</li> </ul>
岡崎委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・海望施設について、まだ先行き不透明なところがあるようですが、もし何かを作るといようなことであれば、景観上のインパクトもありますので、そここのところも気を付けて進めていってください。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現時点では、規模ですとか整備内容について具体的なものはありません。国道8号から糸魚川への玄関口にあたる場所になりますので、景観的なところも配慮していきたいと思います。</li> </ul>
関澤委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・駅北地域の復興のにぎわいづくりということが今議論されていると思いますが、市全体のなかでこの駅北地域の位置付けがどうなっているのか、市役所のある南側もあり、この場所だけがにぎわいということにはならないと思います。復興地域というシンボリックな意味はあると思いますが、全体のつながりのなかで、どういう位置を占めているのかという大きな絵があるとよいのではと感じたところです。</li> </ul>
中出委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・そのことに関しては、ほぼ並行して、立地適性化計画や都市計画マスタープランを新規立案したり改訂したりして、その中で大火のあったエリア、復興計画のエリアもコアな部分として位置付けられているので、その点は大丈夫だと思います。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在、立地適性化計画の方で、都市機能誘導区域と居住誘導地域を定める案を年度末にかけて公表したいと考えています。その中で、この駅北エリアは、1市2町が合併してできた新糸魚川市の都市機能を誘導、集積していくエリアとして駅の南側も含めてですが、誘導区域に位置付けており、その周辺に長い時間をかけてゆるやかに人口を誘導していくためのコアな部分という位置付けであります。</li> </ul>
中出委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それでは、5番目の「暮らしを支えるまちづくり」について事務局から説明をお願いします。</li> </ul> <p>(事務局説明)</p>
中出委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公営住宅が特にそうですが、器をつくるのが目的ではなく、その中でコミュニティができて、持続的に健康な心身を保って住んでいただくことが大事なことですると、コミュニティ形成が重要になります。今回の場合は、交流スペースがあったり、保健師さんや社協などが訪問したり、あるいは高齢者が多いことを考えると食推さんや栄養士さんなどオール糸魚川市の福祉保健の方々で今後もケアしていただきたいと思います。</li> <li>・また、会話ができるような場所として、市営住宅の1階、復興まちづくり情報センターなど、必ずしも被災地内ということに限らず、そもそも中心市街地は高齢化率が高いので、達者な方々がちょっと出てきて、話ができるような場があるだけで違うと思いますので、ハード面がある程度整ってきたら、ソフト面の継続的なサービス、見守りを続けていってほしいと思います。</li> </ul>

事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健師等の全戸訪問は全部で8回行い、関係づくりができました。継続して支援が必要な世帯はありますが、そういった世帯でない方も通常業務のなかで今後も相談等を実施していく予定にしていますし、交流スペースなどを使って保健師、栄養士、健康運動士などが出向いて、コミュニティの方に寄与していきたいと思えます。</li> </ul>
中出委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健師さんは担当地区などが決まっていると思いますが、食推さんや栄養士など相談に乗れる方が色んなチャンネルでいるということが大事だと思いますので、よろしく願いいたします。</li> </ul>
中出委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最後、6番目の「大火の記憶を次世代につなぐ」について事務局から説明をお願いします。</li> </ul> <p>(事務局説明)</p>
関澤委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・復興まちづくり計画で議論していた時とは、場所も変わってきたり、そのための施設をつくって記憶をつなぐための常設展示や映像というようなイメージだったのが、今の説明ではそういうものと少し違う、屋内外が一体で使える鉄骨の建物があるにぎわい広場でやっていくとのことでした。ふらっと訪ねてくる人や視察に来る人が大火の映像や復興まちづくりの資料などを規模はともかく常設で見れたり、市内外の小中学生が防災学習のようなことができるようにというところなどは、どのように考えていますか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・にぎわい創出広場の詳細な図面等を本日お配りしていませんが、基本的には屋内外一体で使用できるオープンスペースで壁もある形となります。大火から復興までの経過など情報発信の部分は、施設の壁面や映像機器を用いて発信していくようなことを現在広場の設計の中に入れて込んでいますし、広場の地下にある防火水槽も活用した防災教育プログラムのようなものも展開していきたいということで検討を進めているところです。</li> </ul>
中出委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・酒田大火の記念館は、ちょうど焼け止まったあたりにあります。ああいうようなものをちゃんと残しておいた方がよいのではと思います。中に入ると焼け焦げた電信柱が置いてあって、ここから発災してここで止まったということとか、そこに行けば全部わかるというようなものを残していくということが重要だと思います。中越地震の関係では、長岡市や小千谷市がそれぞれ記憶に残るメモリアルを置き、校外学習等に広く利用されているので、そういったことも考えて広場の建物のしつらえを考えていってほしいということだと思いますのでよろしくお願いします。</li> </ul>
関澤委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小千谷の施設にはボランティアで説明する人がいて非常によくわかった。糸魚川では、この部分が縮小されてきているように感じるのですが、禍転じて福となすではありませんが、防災展示で人を呼び込む契機にしていく、ふらっと立ち寄った人でも一目でわかるというように、回遊と防災展示を結び付けていければよいと思いますので、縮小していく傾向を少しでも持ち直していただくことを期待しています。</li> </ul>
中出委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料にマンホールカードの登録申請というのがありますが、現在の状況はいかがですか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年12月に第9弾のカードが発行されているのですが、その後の募集が今年の</li> </ul>

中出委員長	<p>8月ぐらいと聞いています。詳細が発表され次第、応募したいと思います。カードは下水道プラットフォームという所に申請して、審査を受けることになります。</p> <p>・カードは言った場所でないともらえないので、糸魚川の場合もにぎわい創出広場とかに行かないともらえないとか、来てもらうきっかけにして復興につながっていくように、単発の一過性のイベントで終わらせないよう取り組んでいってほしいと思います。</p>
中出委員長	<p>・それでは、③の「被災者・関係者アンケート結果」について、事務局から説明をお願いします。</p> <p>(事務局説明)</p>
中出委員長	<p>・アンケートの回収率が33.2%となっており、ちょっと低いと思います。地方都市ですと、手渡しで回収は郵送だとしても4割は返ってきます。しかもこのアンケートは当事者なので、もう少し高くなるようにやり方や聞き方を工夫した方がよいと思います。都会のマンションなどで配布と回収を郵送にした場合は1割程度、戸建て住宅の場合で2割程度ですが、長岡や新潟の大学などでは、手渡しで郵送回収にすれば4割は必ず行きます。回答数が少ないと統計的に有意なものとはいえ、毎年良くなった悪くなった等の推移を見たいのであれば、これまで再建でそれどころではなかったのかもしれませんが、なおさら回収率を上げていく必要があります。回収率を上げたうえで、自由意見欄のコメントもストックしていくことをぜひお願いします。</p>
中出委員長	<p>・次に、議事(2)復興まちづくり計画変更案について説明をお願いします。</p> <p>(事務局説明)</p>
関澤委員	<p>・防災とにぎわいの拠点の災害と記憶の伝承の機能をにぎわい創出広場の方に移すということですが、そのことが変更案にあまり具体的に書かれていない感じがします。</p>
事務局	<p>・資料4の16ページのところで、防災とにぎわいの拠点をにぎわい創出広場に置き換えた形に変更したいと考えています。</p>
関澤委員	<p>・にぎわい創出広場のなかで大火のメモリアル機能ということがどれだけやってくれるのか。糸魚川市としてそういうことの重みをどれだけ感じておられるのかということに少し疑問を感じて質問をさせてもらっています。復興地域の中には、そういうことを思い出したくないという声もあったのかもしれませんが、5年10年で風化していくことから、嫌な映像等も含めて見られるような常設の展示があると良いと思います。</p>
中出委員長	<p>・にぎわい創出広場と書いてあると、一般にがらんどうの広場とわかってしまうので、中身としてそういうことをやっていくということをはっきり書き、常設の展示や社会学習をやるんだということをわかるように書いておくべきではないかという意見かと思います。単に、にぎわい創出広場に防災メモリアル機能の導入と書くだけでなく、何をやるのかわかるように今の書き方だと具体性に欠けていると思いま</p>

